

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

忘れられない一生の思い出

生徒たちからもらった贈り物

月曜日、お昼休みにいつものように図書室へ向かい、いつもの席で「あさきゆめみし」第4巻を読んでいた。物語に読みはまりつつも、図書室に入ってくる生徒にはいつも通り「いらっしやい」と声を掛けます。

するとどんどん生徒の数が増えてきて「なんだか、今日はやけに人が多いなあ」「何か作業するなら邪魔にならないようにしなきゃな…」などと考えていました。

その間もその数は増え続けて、いつもとは違う雰囲気にさすがに何かあることに気づき始めました。すると三年生から突然、「校長先生！、昨日は誕生日おめでとうございます！みんな Happy Birthday を歌います！せーのー！」と全校生徒職員から歌ってもらいました。私は何がなんだか分からず、目の前の状況を受け止め

ようとして必死です。歌い終えたあとで、各学年から似顔絵のプレゼント。一年生は合作、二年生は古川さん、中島さんから、三年生は吉田さんから計4枚ももらいました。

「校長先生から一言」とふられました。嬉しさや感動が大きすぎて、そして目の前の出来事の現実感がなくて、そしてふわふわと夢の中にいるよう、うまくみんなに感謝を伝えきれませんでした。

「ありがとう」を百万回言っても伝えきれませんが、これまで生きてきた中で最高の誕生日の贈り物でした。素晴らしい子どもたち、先生方、職員の方々にこの青嶺中学校で出会えて、間違いない、私は世界一幸せな中学校の校長先生です！

「校長先生から一言」とふられました。嬉しさや感動が大きすぎて、そして目の前の出来事の現実感がなくて、そしてふわふわと夢の中にいるよう、うまくみんなに感謝を伝えきれませんでした。



何のために「対話」する？

先日、教室に「話し合い活動」の役割分担や方法などの掲示物が貼られました。授業の中で様々な話し合いをしなから「対話」を進めていくためです。

なぜ授業の中で「対話」をするのでしょうか？「会話」と「対話」はどう違うのでしょうか？

会話は何気ないお話をすること、特に目的はありません。それに比べ「対話」には「目的がある」のです。何かを決める、自分と人の考えを比べる、自分の考えを見直す人からアドバイスや気づきをもたらすなどすべてが「対話」です。数学で問題を解くために聞くこともそう、理科で実験をスムーズに行うために協力することもそうです。

他者と共に言葉のやりとりを通して目的を達成する経験を重ねていきましょう。自分の考えを、思いもつかない切り口で更新してくれる他者の考えを吸収しましょう。自分の成長のために「対話」をどんどん重ねてほしいと思います。私からも対話のための「お題」を皆さんに投げかけますので、どうぞ期待です。気楽に返して下さいね。

鳥の観察

一人旅だと暇すぎて、鳥に食べ物あげて寂しさを紛らわすことが良くあります。海沿いならカモメの集団とたわむれます。本当は、食べ物あげてはいけない野生動物です。彼らはある一定の距離までしか人間には近寄りません。その距離は動物によっての差があり、ワライカワセミは、ポーンとしていると手から食べ物直接奪い取るし、カンガルは大きな生息域によっては警戒心が薄いのもいます。ロットネスト鳥にいるクオッカは直接手から食べ物をとるくらい警戒心があります。カモメは1mくらいまでは近寄りません。大体彼らの間合いが分かると、少しずつ距離を詰めて彼らの勇気を試みます。まあまあ意地悪ですね。

愛情深く子育てするカラス、朝早くから大声で鳴き、寝せてくれないワライカワセミ、美しい羽の色に比べ鳴き声はあまり美しいオウム、群れで飛ぶと空が煌めくモイロインコ、孤高の大鷲：群れでいたり一羽でいたり、オーストラリアは鳥にとって楽園であろうと思います。大空を自由に飛ぶ姿にあこがれますし、飛びながら遙か上空からの眺めも見てみたい。一度は鳥に生まれ変わってみたいなあ：と今でも夢想します。